

# 製品安全データシート

かため太郎 (1/7)

整理番号 M4010

作成日 平成 22 年 5 月 12 日

改定日 平成 27 年 10 月 14 日

## 1. 製品及び会社情報

製品名：かため太郎

会社名：オバナヤ・セメンテックス株式会社

東京支店

住 所：東京都中央区日本橋小伝馬町 16-6

TEL 03-3663-7641/FAX 03-3661-0496

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

#### 1) 物理化学的危険性：

可燃性・引火性ガス：	区分 1
高压ガス：	液化ガス
支燃性・酸化性ガス：	区分外
引火性液体：	区分 2

#### 2) 健康に対する有害性

急性毒性（経口）：	分類できない
急性毒性（経皮）：	分類できない
急性毒性（吸入・蒸気）：	区分 4
皮膚腐食性／刺激性：	区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	区分 1
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	区分 1
生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	分類できない
生殖毒性：	分類できない
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）：	区分 1
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）：	区分 1
吸引力呼吸器有害性：	分類できない
水性環境有害性（急性）：	分類できない
水性環境有害性（慢性）：	分類できない
オゾン層への有害性：	分類できない

ラベル要素：絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険

危険有害情報： 極めて可燃性・引火性の高いガス  
高压ガス：熱すると爆発するおそれ  
眠気及びめまいのおそれ

引火性の高い液体及び蒸気  
 吸入すると有害  
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
 重篤な眼の損傷  
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
 臓器（中枢神経系）の障害  
 臓器（腎臓）の障害のおそれ  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 長期又は反復ばく露による中枢神経、末梢神経の障害

## 注意書き

### 【安全対策】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。  
 容器を密閉しておくこと。  
 容器を接地すること／アースをとること。  
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。  
 火花を発生させない工具を使用すること。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
 取扱い後は手をよく洗うこと。  
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

### 【応急措置】

漏洩ガス火災の場合、漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。  
 安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。  
 皮膚（又は毛髪）に付着した場合：汚染された衣類を直ちにすべて脱ぐこと。  
 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。  
 吸入した場合：空気に新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着して  
 いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：直ちに医師に連絡すること。  
 気分が悪い時は医師の診断/手当を受けること。  
 特別な処置が必要である。（SDSを医師に見せ判断を得よ。）  
 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断/手当を受けること。  
 汚染された衣類を脱ぐこと。そして再使用する場合には洗濯をすること。  
 火災の場合：消火するためにABC消火器を使用すること。

### 【保管（貯蔵）】

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
 涼しいところに置くこと。  
 施錠して保管すること。

### 【廃棄】

内容物や容器を法令に従って適切に廃棄すること。

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

成分及び含有量：

成分名	含有量	CAS No.	化審法
4, 4-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3-エポキシプロパンの重縮合物 一般名：ビスフェノールA型固形エポキシ樹脂	15～20%	25068-38-6	7-1283
メチルエチルケトン	25～35%	78-93-3	2-542
ケチミン	2.5～5%	記載あり	記載あり
その他	0.5～2.5%	記載あり	記載あり
ジメチルエーテル	40～60%	115-10-6	(2)-360

### 4. 応急措置

眼に入った場合：直ちに大量の清浄な水で15分以上目を洗浄した後、出来るだけ早く眼科医の診察を受ける。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

皮膚に付いた場合：汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ捨てる。ガーゼ等の布でよく拭取り、大量の水及び中性石鹼を使ってよく洗い落とす。溶剤・シンナー等は使用しないこと。外観に変化が見られたり、痛み、かゆみ等がある場合は直ちに医師の診察を受ける。

吸入した場合：風通しの良い空気が新鮮な場所へ移して呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

飲み込んだ場合：直ちに水道水で口内をすすぎ、直ちに医師の診察を受ける。意識が無い場合は口から何も与えてはいけない。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

### 5. 火災時の措置

消火剤：二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤、噴霧水、乾燥砂などを用いる。

使ってはならない消火剤：棒状注水

特有の危険有害性：容易に発火するおそれがある。

加熱により容器が爆発する恐れがある。

破裂したボンベが飛翔する恐れがある。

火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガス及びヒュームを発生する恐れがある。

特有の消火方法：漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。

火災発生場所周辺に関係者以外の立入を禁止する。

安全に対処できるならば着火源を除去する。

消火剤のうち、散水以外の消火剤を利用すること。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。

大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。

これが不可能の場合には、その場所から非難し、燃焼させておく。

周辺および漏洩状況から判断して消火すると危険が増すと考えられるときは火災の拡大延焼を防止するため周辺に噴霧散水しながら容器内のガスが無くなるまで燃焼させる。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

ガス漏れを止められないときは、漏洩ガスの火災は消火しない。  
 消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学保護衣を着用する。

## 6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項：漏洩した場所の周辺には、ロープを張るなどして人の立入りを禁止し危険区域での火気使用を禁止する。  
 風上に留まる。低地から離れる。  
 作業の際には、必ず保護具を着用する。  
 ガスが拡散するまでその場所を隔離する。

環境に対する注意事項：付近の着火源となるものを速やかに取り除く。  
 漏出したものが、下水、河川に流出するのを防ぐ。

除去方法：危険でなければ漏れを止める。  
 少量の場合は、吸着剤（砂、ウエス等）で吸着させ密閉容器に回収した後、残りをウエス等で拭き取る。  
 大量の場合は、可能な限りせき止めし、ポンプ（防爆型）等で回収する。又は砂、ウエス等に吸着させドラム等に回収する。

二次災害の防止策：下水溝、通気装置あるいは閉鎖場所から蒸気が拡散するのを防ぐ。  
 漏出物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 吸い込んだり 眼、皮膚及び衣類に触れない様に適切な保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。  
 局所排気装置等を設置して換気を良くする。  
 休憩所には洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設け、取り扱い後に手、顔等をよく洗う。労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。  
 火気厳禁。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。  
 接触、吸入又は飲み込まないこと。  
 眼に入れないこと。  
 この製品を使用する時に飲食又は喫煙をしないこと。  
 環境への放出を避けること。  
 「8. 暴露防止装置」を確認のこと

保管上の注意：直射日光を避け、容器を密栓して風通しの良い屋内に保管する。  
 ボイラー等熱源付近や可燃物の近くに置かない。

混蝕禁止物質：「10. 安定性及び反応性」を参照のこと。  
 容器：消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. 暴露防止装置

管理濃度	：	メチルエチルケトン	200ppm	
許容濃度	：	メチルエチルケトン		
		日本産業衛生学会（2005年版）	200ppm	590mg/m <sup>3</sup>
A C G I H（2005年版）		TLV-TWA	200ppm	B E I
		STEL	300ppm	B E I

- 設備対策 : 局所排気装置、設備の密閉化又は全体換気を適正に行うことが望ましい。  
洗顔、洗眼、手洗い場等設置。
- 呼吸器の保護 : 有機ガス用防毒マスクを着用。
- 手の保護具 : ゴム手袋等の適切な保護手袋を着用。
- 眼の保護具 : 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡を着用。
- 皮膚及び身体の保護 : 不浸透性の保護衣、保護手袋、長靴、眼鏡及び前掛け等。

## 9. 物理及び化学的性質

- 物理的状态・形状・色など : 原液 淡黄色透明液状  
噴射剤(DME) 無色透明液体
- 臭気 : 原液 芳香臭  
噴射剤(DME) やや甘味臭
- pH : 原液 データなし  
噴射剤(DME) データなし
- 融点・凝固点 : 原液 データなし  
噴射剤(DME) -141.5℃
- 沸点、初留点及び沸騰範囲 : 原液 データなし  
噴射剤(DME) -24.82℃
- 引火点 : 原液 -7℃ (原料データとして)  
噴射剤(DME) -41.1℃
- 爆発範囲 : 原液(メチルエチルケトン) 下限 1.8vol%、上限 11.5vol%  
噴射剤(DME) 下限 3.4vol%、上限 27.0vol%
- 蒸気圧 : 原液(メチルエチルケトン) 10.5 kPa (20℃)  
噴射剤(DME) 3,800mmHg (20.8℃)
- 蒸気密度(空気=1) : 原液 データなし  
噴射剤(DME) 1.59
- 比重(密度) : 原液 0.92 (25℃) (原料データとして)  
噴射剤(DME) 0.661 (25℃)

## 10. 危険性情報

- 安定性 : 通常条件下では安定。
- 反応性 : 酸、塩基と接触すると反応熱を伴って硬化する。  
高温の表面、火花、裸火により発火。
- 避けるべき条件 : 高温の表面、火花、裸火、日光、スパーク、静電気、その他発火源
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸、強無機塩基、有機塩基 (特に 1,2 級の脂肪族アミン)
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。

## 11. 有害性情報

- 急性毒性 経口 : 分類できない
- 急性毒性 経皮 : 分類できない
- 急性毒性 吸入(気体) : 分類対象外
- 急性毒性 吸入(蒸気) : 区分 4 混合物計算推測値 (LC<sub>50</sub>) 11,700ppm  
吸入すると有害な物質を含む
- 急性毒性 吸入 : 分類できない  
(粉じん・ミスト)

皮膚腐食性・刺激性：区分 1

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある物質を含む

生殖細胞変異原性：分類できない

発がん性：分類できない

生殖毒性：分類できない

授乳に対する又は

授乳を介した影響：分類できない

特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：区分 1 区分 2 区分 3

臓器（中枢神経系）の障害がある物質を含む

臓器（腎臓）の障害のおそれがある物質を含む

呼吸器への刺激のおそれがある物質を含む

特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：区分 1

長期ないし反復暴露による臓器（中枢神経系、末梢神経系）の障害がある物質をふくむ。

吸引性呼吸器有害性：分類できない

## 12. 環境影響情報

生態毒性：メチルエチルケトン ブラインシュリンプ LC<sub>50</sub> 1950mg/L/24H

残留性・分解性：ビスフェノールA型固形エポキシ樹脂;ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂より残留性・分解性は低い。ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂は急速分解性がない（BODによる分解度:0%）

メチルエチルケトン 難水溶性ではない水溶解度=2.23×10<sup>5</sup>mg/L

生体蓄積性：ビスフェノールA型固形エポキシ樹脂;ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂より生体蓄積性が低いもの(BC≤42)

土壤中の移動性：データなし

オゾン層への有害性：データなし

・水生環境有害性（急性）：分類できない

・水生環境有害性（慢性）：分類できない

・オゾン層への有害性：分類できない

- ・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：処理に関しては、十分な知識を有する専門家の指示に従う。

残余物の処理は、都道府県知事の許可を受けた、信頼のできる廃棄物処理業者に、廃棄物の危険・有害性を充分告知の上、その処理を委託する。

汚染容器・包装物：空容器は残油または気化した蒸気の引火、爆発の危険があるので、密栓し、指定場所に保管する。残油の回収、蒸気開放等未処理の空容器の切断、溶接等の加工はしない。廃棄する場合は内容物を完全に除去した後処分する。

## 14. 輸送上の注意

注意事項：輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないことを確認する。

転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にし、該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

国連分類：クラス 2.1（引火性高圧ガス）

国連番号 : 1950  
 緊急時応急措置指針番号 : 126  
 陸上輸送 : 消防法、労働安全法に定められる運送方法に従うこと。  
 海上輸送 : 船舶安全法に定められるところに従うこと。  
 航空輸送 : 航空法に定められるところに従うこと。

#### 15. 適用法令

高圧ガス保安法 : 適用除外  
 消防法 : 危険物第4類第1石油類 危険等級Ⅱ  
 労働安全衛生法 :

- ・ 名称等を通知すべき有害物  
 (法第57条の2、施行令第18条の2別表題9)  
 メチルエチルケトン (政令番号 第570号)
- ・ 名称等を表示すべき有害物  
 (法第57条第1項、施行令第18条)  
 メチルエチルケトン
- ・ 第2種有機溶剤等  
 (施行令別表第6の2、有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)  
 メチルエチルケトン
- ・ 危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号)
- ・ 労働災害認定物質  
 ビスフェノールA型固形エポキシ樹脂

化学物質管理促進法 (PRTR法) : 非該当  
 毒劇及び劇物取締法 : 非該当  
 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (産業廃棄物) (ビスフェノールA型固形エポキシ樹脂)  
 大気汚染防止法 : 燃焼時 有害物質 (ビスフェノールA型固形エポキシ樹脂)  
 船舶安全法 : エアゾール (引火性高圧ガス。容積が1L以下で再充填ができないもの。)  
 航空法 : エアゾール (引火性のもの。毒物、腐食性物質又は毒ガスを含まないもの。)

#### 参考文献

- ・ 石油化学メーカー「製品安全データシート」
- ・ 化学工業日報社「14504の化学商品」
- ・ 化学工業日報社「化学物質管理促進法対象物質全データ」
- ・ 化学工業日報社「労働安全衛生法対象物質全データ」
- ・ 3省告示 (厚生労働省、経済産業省、環境省 GHS 関係省庁連絡会議 : NITE HP)
- ・ 安全衛生情報センター
- ・ 製品評価技術基盤機構

本製品をご使用の際は必ず下記文献をお読み下さい。

「エポキシ樹脂及び硬化剤のただししい取り扱いの手引き」エポキシ樹脂技術協会編

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について安全な取り扱いを確保する為の参考資料として、取り扱い事業者提供されるものです。

取り扱う事業者は、これを参考として自らの責任において個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講じる必要があることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。